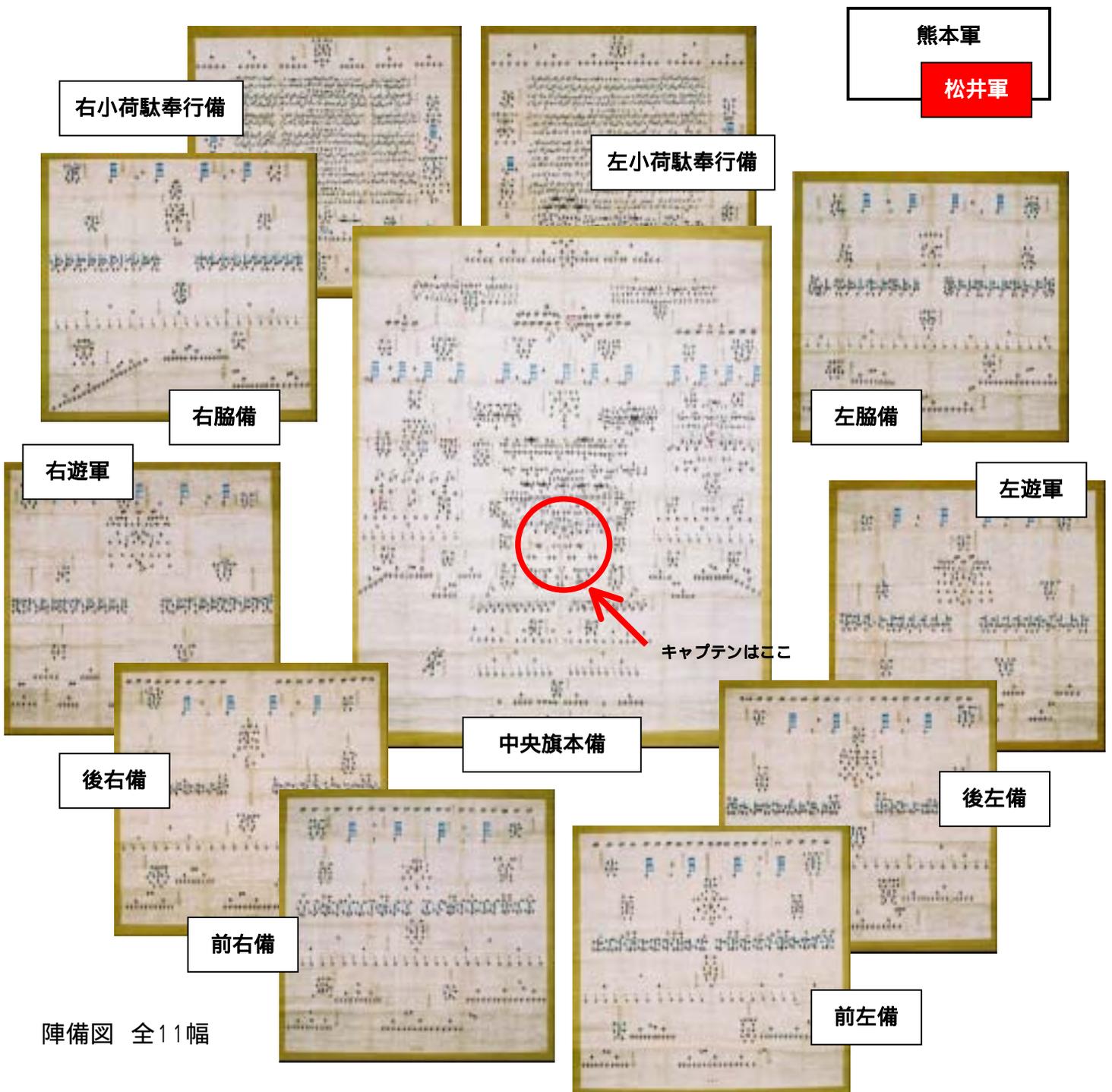


じんぞなえず
陣備図

全 11 幅 掛幅装 江戸時代中期 (18 世紀) 松井文庫所蔵
中央旗本備図 縦 250.5 cm 横 203.7 cm

肥後・熊本藩の中で、筆頭家老であり八代城を預かる松井家は、藩の軍制の中でも重要な役割を担っていました。サッカーに例えるなら、松井家は熊本チームの左のフォワード(最前衛部隊)にあたります。

これらの図は、左フォワードとして松井家が率いる部隊(「備そなえ」という)のフォーメーションを、グループごとに記したもので、松井キャプテンを中心(中央旗本)に、前(1番手)の左右・後ろ(2番手)の左右・脇の左右、遊軍の左右、小荷駄奉行(補給・工兵部隊)の左右からなる計11部隊から構成されています。



陣備図 全11幅

「備」を構成する人々

「中央旗本備」中央の松井家当主（総指揮官）

この備は、松井家一門と その家臣、本藩から八代城警備に配属された武士、本藩の武士の3種により構成されています。それぞれ「自分」、「八代」、「御城附」、「役」または記載なしで区別されています。



さまざまな旗(指揮官は誰か、またその位置を示す)



「前左備」を指揮する益田弥一衛門(藩の一番組番頭、千石)



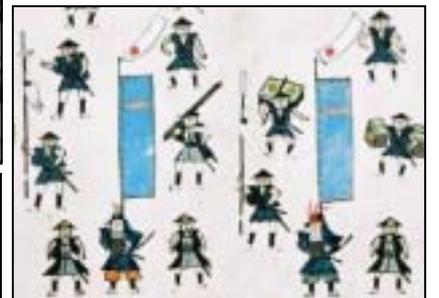
朱鋏形大馬駈
しめくわがたおまかじり



「右脇備」を指揮する松井角左衛門(松井家番頭、千石)



騎馬隊(きばたい) 鉄砲頭



徒士隊(かちたい)

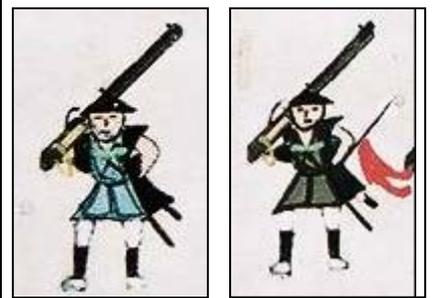
騎馬武者、鉄砲、長柄(鏝)、弓などの各部隊は、頭、奉行と呼ばれる小隊長の指揮下にあります。

武士の周りには何人かの従者がいますが、これは石高(給料)に応じて数が決まっています。150石取の武士で、6人連れています。今の会社組織でいえば係長クラスにあたるでしょうか。



御鉄砲頭
三百石で十三人

鉄砲頭御城附
百五十石で七人



鉄砲隊 松井家所属の鉄砲足軽は赤い目印をつけている。



長柄(鏝)
馬
弓



「小荷駄奉行備」の工兵・輸送部隊

この陣備図が描かれたのは、8代目藩主重賢公(1720~94)、松井家6代目豊之公(1704~71)の時代です。図中の人名からみて、宝暦5年(1755)頃のものと思われます。松井家は代々、細川家中の軍備を調べ、石高に応じた武具人馬の数や旗の図柄を調べる任にあたっていました。